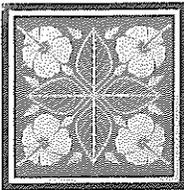


人と旅行とバリアフリー



JTMバリアフリー研究所 所長
草薙威一郎さん

くさなぎ いちろう ● 埼玉県生まれ。1973年JTB入社。海外旅行営業、旅行マーケティング調査、営業企画等を経て、JTBグループ全体のノーマライゼーション推進業務に従事。2002年より現職。観光ユニバーサルデザイン推進活動に取り組む。主・共著に『障害者旅行ハンドブック』『障害者を持つ人と行く旅』『新たな観光まちづくりの挑戦』など。

人は旅する生きもの

旅行は文化です。見知らぬ土地に深い関心を寄せ、多くの時間とお金と労力を費やして、そこへ出かける。この旺盛な知的好奇心こそ、人の精神の豊かさを証明するものにほかなりません。

旅行は人を成長させます。例えば、体に障害を抱え引っ込み思案になってしまった人が、旅行体験によって自信をつけ、物事に積極的になったという話をよく聞きます。逆に介助する側も、旅先で見せてくれるその人の笑顔に、とても多くのことを学ぶでしょう。

旅行は人の心をイキイキさせます。いつもと違う風景、違う匂い、違う音色、違う味覚……。直接五感に働きかけてくる刺激が、日常生活

のなかでしばみかけていた心には何よりのカンフル剤となります。

自分の意志で旅行をするのは人間だけです。逆にいえば、それだけ旅行は人間にとって必要不可欠なものなのかもしれません。

旅行は誰のものか

ヨーロッパにおける旅行の歴史は古く、すでに2000年前には、古代ローマ人たちがエジプト観光へ行ったという記録が残っています。そして、今でもヨーロッパの人々は、生活の一部として、誰もが当たり前旅行を楽しんでいるのです。

この「誰もが」のなかには、もちろん、ご高齢者や体に障害を抱える人たちも含まれます。

日本の場合はどうでしょう。勤勉な国民性ゆえか、旅行は長いあいだ

「庶民には贅沢なもの、特別なもの」として扱われてきたように思えます。純粋に旅行を楽しむのはどこか後ろめたく、だからこそ「お伊勢参り」などのように、旅を正当化してくれる名目が必要でした。広く大衆化し始めたのは、ようやく1960年代になってからでしょうか。まして海外旅行が身近になったのは、ここ20数年の話でしかありません。

日本が立ち後れた理由

こうした東西の価値観の違いは、バリアフリーに対する考え方にも表れているように思います。

「人が旅行をするのは当たり前」との立場であれば、「体が不自由でも旅行は当たり前」という発想が容易に生まれてきます。ところが、「旅行は贅沢、特別なもの」との立場で考えると、観光地のインフラ整備などは優先的に取り組む課題ではなくなってしまいます。

日本のバリアフリーが立ち後れていた背景には、そうした価値観の違いが横たわっていたのではないのでしょうか。

もっとも、そんな状況もここ10年ほどで、かなり改善されてきました。2006年12月に施行された「バリアフリー新法」が、この流れをいっそう加速する推進力になるものと私は期待しています。

バリアフリーの一步先へ

現在、バリアフリーの発想をさらに一步進めた「ユニバーサルデザイン(UD)」という考え方が、時代の主流になりつつあります。「ユニバーサル」とは「万人共通」、すなわちバリアを取り払うのではなく、最初から誰でも分け隔てなく使えるものを作ろうという発想です。

その根底には、誰もが等しく参加できる社会こそが正常であるとする「ノーマライゼーション」の思想があります。これはもう、ひとつの考え方というより人類全体の総意といっているかもしれません。

どんな人にも旅行を楽しむ権利があります。特別なものとしてではなく、ごく当たり前、生活の一部として旅行を楽しむ時代を迎えています。そしてこの先、より多くの人々が旅行へ出かけることによって、必ず社会はその大切さに気づき、きっと変わります。

では皆さん、どうぞよい旅を!

DATA

JTMバリアフリー研究所
((株)ツーリズム・マーケティング研究所内)
国東京都中央区日本橋室町1-7-1
スルガビル9F
URL www.tourism.jp



STAFF

監修	草薙成一郎	Supervisor	lichiro Kusanagi
制作	田中邦子	Producer	Kuniko Tanaka
編集	サザンカンパニー	Editors	Southern Company
	長岡弘志		Hiroshi Nagaoka
	小澤 航		Wataru Ozawa
	高橋祐子		Yuko Takahasi
	山本彩野		Ayano Yamamoto
ライター	木谷友子	Writers	Tomoko Kitani
	吉田恵利子		Eriko Yoshida
	依田則子		Noriko Yoda
	増田小夜子		Sayoko Masuda
写真	吉岡 宏	Photographers	Hiroshi Yoshioka
	堀 正泰		Masayasu Hori
	田辺一豊		Kazutoyo Tanabe
	古屋洋一郎		Yoichiro Furuya
イラストレーター	杉井洋一	Illustrator	Yuuichi Sugii
コーディネーター	本間律江	Coordinator	Ritsue Honma
地図	辻野良晃	Maps	Yoshiaki Tsujino
校正	エッグ舎	Proofreading	Egg-Sha
表紙	大井田恵美	Cover Design	Megumi Oida
表紙写真	©AFLO	Cover Photo	©AFLO
デザイン	サザンカンパニー	Designers	Southern Company
	釜巻 勝		Masaru Kamayachi
	江村希央		Kio Emura
	深澤琢磨		Takuma Fukazawa

Special Thanks

Hawaii Tourism Japan
Hilton Resorts Hawaii
Pacific Beach Hotel
Sheraton Hotels & Resorts Waikiki
Hertz Asia Pacific (Japan) Ltd.

バリアフリー・ハワイ旅行をサポートする会
(株)アサツー・ディ・ケイ
(株)ねこの手
ふく

読者投稿・受付デスク 〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-61-11 飯森ビル5階
「地球の歩き方」サービスデスク「バリアフリー・ハワイ」投稿係
FAX (03) 5643-8556 [http://www.arukikata.co.jp/guidebook/toukou.html](http://www.arukikata.co.jp/guidebook/toukou)

地球の歩き方ホームページ(海外旅行の総合情報) <http://www.arukikata.co.jp/>
ガイドブック「地球の歩き方」(本の検索&購入、更新情報、オンライン投稿) <http://www.arukikata.co.jp/guidebook/>

地球の歩き方 リゾート324 バリアフリー・ハワイ

2007年3月16日初版発行

Published by Diamond-Big Co., Ltd.

3-5-2 Akasaka, Minato-ku, Tokyo 107-0052, Japan

TEL (81-3) 3560-2117 (Editorial Section)

TEL (81-3) 3560-2113 / FAX (81-3) 3584-1221 (Advertising Section)

Advertising Representative: Pacrim Marketing Group Inc.

(Honolulu) TEL (808) 949-4592 FAX (808) 942-5251

著作編集 「地球の歩き方」編集室

発行所 株式会社ダイヤモンド・ビッグ社

〒107-0052 東京都港区赤坂3-5-2 サンヨー赤坂ビル

編集部 TEL (03) 3560-2117

広告部 TEL (03) 3560-2113 FAX (03) 3584-1221

発売元 株式会社ダイヤモンド社

〒150-8409 東京都渋谷区神宮前6-12-17

販売 TEL (03) 5778-7240

ご注意ください 本書の内容(写真・図版を含む)の一部または全部を、事前に許可なく無断で複製・複製し、または著作権法に基づかない方法により引用し、印刷物や電子メディアに転載・転用することは、著作権および出版社の権利の侵害となります。

All rights reserved. No part of this publication may be reproduced or used in any form or by any means, graphic, electronic, or mechanical, including photocopying, without written permission of the publisher.

印刷製本 開成堂印刷株式会社 Printed in Japan

禁断転載 ©株式会社ダイヤモンド・ビッグ社

ISBN978-4-478-05366-9



海外旅行は安全第一

自己記入式 安全カルテ



Personal Clinical Record

日本旅行医学会監修

海外での **いざいざ** を想定した準備は、すべての旅行者に必要です。

日本旅行医学会認定医の声を反映して、海外で病院にかかるときに必要な医療情報が救急医の視点で作成された「自己記入式安全カルテ」は、日英両言語で併記されているので、海外で不安な「言葉の壁」を乗り越える事ができます。

この「自己記入式安全カルテ」は、救急隊員や病院の受付に見せるだけでスムーズに治療などを受ける事ができますので、安心して快適な海外旅行をお過ごしいただけます。

年代によってわかりやすい病気や注意するポイントがまったく異なるために「成人用」「学生用」「小児用」の3種類を用意しました。

いずれのタイプにも共通の特徴が2つあります。

日本語を読んで、ご自身で記入していただくだけで海外でも治療を担当する医師に必要な医療情報が正確に伝わるように工夫されています。

普段使用している薬剤のチェックも、アイウエオ順でチェックしやすくなっています。もちろん英語で並記していますので、海外の医師にも理解されます。

また、旅行前に準備するもの、日本と大きく異なる救急医療システム、旅行中に注意したい病気やケガなどに関するポイントなど、読み物としても大変充実した内容となっています。これからの海外旅行に是非、ご利用ください。

お求めは、お近くの書店または日本旅行医学会ホームページより

お問い合わせ 日本旅行医学会事務局 TEL.03-5411-2144 www.jstm.gr.jp

全第一 !!

- 1 Ichiro Kusanagi
- 1 Kuniko Tanaka
- 5 Southern Company
- Hiroshi Nagata
- Wataru Ozawa
- Yuko Takahashi
- Ayano Yamamoto
- Tomoko Kiani
- 5 Eriko Yoshida
- Norio Yoda
- Sayoko Masuda
- 5 Hiroshi Yoshikawa
- Masayasu Hori
- Kazuyasu Tanabe
- Yochiko Furuya
- Yr Youchi Sugii
- Yr Ritsue Honma
- 5 Yoshitaki Tsujino
- 9 Egg-Sha
- n Megumi Oida
- 0 © AFLO
- 5 Southern Company
- Massaru Kamayachi
- Kio Emura
- Takuma Fukazawa

71旅行をサポートする会
...ケイ

61-11 簡潔ビル5階
アフリー・ハライ」投稿係
kaka.co.jp/~vdebook/koukou.html
ukikata
ライオン投稿 http://www.ankikata.co.jp/guidebook/

71

g Section)

221

許に許可なく無
や電子メディア
form or by any
in permission of

海外旅行は安全第一

成人用 海外旅行のために
学生用 海外海外旅行のために
小児用 楽しい家族旅行のために

DEAR
安全カルテ
PERSONAL
Clinical Record

DEAR
安全カルテ
海外旅行のための安全カルテ

DEAR
安全カルテ
海外旅行のための安全カルテ

Personal Clinical Record 日本旅行医学会監修

海外での

を想定した準備は、すべての旅行者に必要です。

日本旅行医学会認定医の声を反映して、海外で無制限にかかるときに必要な医療情報や救急医の拠点で作られた「自己記入式安全カルテ」は、日英両言語で併記されているので、海外で不安な「言葉の壁」を乗り越える事ができます。この「自己記入式安全カルテ」は、救急隊員や病院の受付に見せるだけスムーズに治療などを受けられますので、安心して快適な海外旅行をお過ごしいただけます。

年代によってかわりやすい病気や注意するポイントがまったくと異なるために
成人用 『学生用』 の3種類を用意しました。

いずれのタイプにも共通の特徴があります。

日本語を読んで、ご自身で記入していただく
だけで海外でも治療を担当する医師に必要な医療
情報が正確に伝わるように工夫されています。

普段使用している薬物のチェックも、アウエオ
順でチェックしやすくなっています。もちろん英
語で並記していますので、海外の医師にも理解
されます。

また、旅行前に準備するもの、日本と大きく異なる物や医療システム、旅行中に注意したい病気やケガなどに備する
アイテムなど、細かい物としても大変便利な内容となっています。これらの海外旅行に専用にご活用ください。

お求めは、お近くの書店または日本旅行医学会ホームページより

お問い合わせ: 日本旅行医学会事務局 TEL.03-5411-2144 www.jstm.gr.jp

!!

観光ユニバーサルデザイン (UD) の存立基盤に関する論

—「旅と幸せ」との関係

<旅の根拠>

- 自らの意思で旅をする生きものは人だけである
 - ・ 花の種は風と共に旅をするが自らの意思ではない
 - ・ 渡り鳥は遠く旅をするが自らの意思ではない
- 人は「強い」人だけが生き残るのではなく、弱くても歳をとっても全ての人
が同等の尊厳を持って、生ききる道を選んだ（「ノーマライゼーション」の
思想）
- ノーマライゼーションの社会におけるすべての人の参加には、当然旅を楽し
むことも含まれる
- このように観光 UD は、社会の成熟化、ノーマライゼーションの定着化と共
に起こる歴史の必然的な動きである

<旅の成熟化>

- 観光の客体である社会の成熟化には、①平和と安全の確保、②旅に必要な観
光基盤とシステムの充実、③文化・自然、その他の観光資源に対する尊敬の
念、④他者を迎えるホスピタリティ、が必要である
- 観光主体である旅行者の成熟化には、①貧困からの解放（経済的だけでなく、
時間、健康面も含めて）、②旅行者個人の発展（「旅の喜び」を感じることに、
人生経験も含めて）、③他者に対する道徳的関心（人や環境の存在に関心を
持ち、他者との相互関係を自分の価値観をもつ）、が必要である

<旅の原点>

- 旅の難儀、旅の喜び、五感での旅の楽しみ、旅の目的達成などは旅の原点で
ある。近年の旅行ではこれらの側面が薄れてきたが、観光 UD では良くも悪
くもこれらの「喜怒哀楽」の幅が大きく、また感動も大きい。このことによ
って人は成長する
 - 観光 UD 関係者は、「人に楽を与え、人の苦しみをなくし、人の喜びを自分
の喜びとし、(恨みを捨て) 平等に接する」四無量心（しむりようしん）の
心持が求められる
- この半年、実体験を基にノーマライゼーション、アマルティア・セン、宗教
などを読んで考えたメモです。